



第1回

阿蘇市文化協会
広報委員会阿蘇市文化協会
初年度十ヶ月の振り返り阿蘇市文化協会
会長
岩永 浩

会員九百名余りの協会としてスタート致しました。まず目標を第一回阿蘇市文化祭を開催する事に致しました。旧三ヶ町村各協会役員含めて新役員で実行委員会を編成し早速昨年五月末から会合を重ねて来ました。一昨年迄の合同文化祭とは異なり多数の会員となったため様々な意見が出るようになり、お互い苦勞を重ねて来ました。そのうち、役員各位の前向きな誠意ある行動によりご来場者延べ四千五百人余りの大文化祭が成功の内終りましたことを厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

この広報誌も年三回程度の発行を予定していましたが、今回が第一回目となりました。遅れた事を深く反省するとともに皆様にお詫び申し上げます。

昨年内から市当局で文化ホール市民会議設立、市庁内に文化ホール準備委員会設立、二月十日には各地の文化ホールで活躍されている、財団法人地域創造芸術環境部チーフディレクターの津村卓先生の講演会が開催されました。私個人的には行政と民間が一体となり阿蘇にふさわしいホール、またこの文化ホールが文化

協会員はもちろん、阿蘇市民の皆さんが有意義に活用できるようなホールが出来て来る事を切に願う次第であります。実現には様々な課題がありますが、市民がそれぞれの立場で検討し、文化ホール建設実現に向けて共に歩んで行くことはありませんか。

来年度に向けて事業活動については次世代の事も充分に取り入れながら推進して行きたいと思っておりますので市民各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。



第1回 阿蘇市文化祭

文化と文化協会に想う

副会長 後藤 新一

私達の日常生活において、物質面から、技術や学問、芸術、道徳、宗教、政治など幅広くその活動成果が見られ、それが残され、引継がれてきたこと、又継承していく、そのことが文化だと思ふ。その文化に關

し同じ目的をもった人達が協力し合いながら、維持発展させていこうとしているのが文化協会だと思ふ。

会員が同じ目的意識をもって協会と云う組織に対し、理解と認識をもって、各々のグループがお互いに連絡を密にしながら物質面でも文化の振興を望み、各々の地域住民の生活上を重視していくものです。

現実には文化協会の活動はその地域文化のパロメーターであり更なる活性化への導きが肝要であり、又協会はその地域文化の底辺であり、切磋琢磨と共存共栄の形で対応していかねばならないと思われれます。

云々までもなく文化活動は即ち、その成果が見られるのではなく日々の積み重ねが、徐々に現れるものであり、発表会、講演会、その他交流会や練習などのなかで育くまれ、築かれていく、人と人とのつながり、それが和となり、少なからず地域社会経済の発展に寄与していると思えます。

常々念願していた文化ホール建設についても、市基本構想など検討協議されていますが少しでも早期に完成されるよう機会をみて問い、推奨しているところです。

各々のグループ活動が、各々の形で活発化し、協会と云う枠のなかで世に訴える力を養い、それを訴え、会員の人々がゆとりある健康で豊かな生活を限りなく前進することを念願する者の一人であります。

創る喜び

展示部長 関 英輝

驚きました。我が阿蘇市民のパワーに！。その作品の多様さとレベルの高さに。また、文化協会員のその奉仕精神に。

第一と第二体育館に繰り広げられた多くの作品や展示用設備が、協会員みなさんの協力で、文化祭終了の一時前後には、完全に最初の形に片

付けられていました。きつちりと清潔な当初の姿に。会場設営や作品搬入も実に手際のよいものでした。開催日前夜、遅くまで準備をしてくださった「生け花」や「写真」のグループのみなさん、展示スペース不足の中で展示方法に苦勞された「書道」や、その他のグループと展示責任者のみなさんに心から感謝いたします。

この文化祭に、多くの人々が、理解を示し情熱をもって準備に参加してくださりました。これは阿蘇市民の、文化に対する限りない渴望の結果であつたと思えます。

第一回阿蘇市文化祭を創るうえで、協会の協力と奉仕の気持ちが大きな力となりました。また、私たちは阿蘇市文化祭を創り上げるといふ意義の大きさを感じながら取り組むことができました。特に、次年度以降の文化祭の礎としての役割を果たした喜びを、展示部門に参画された方々と共に、分かち合いたいと思えます。私たちは、独創的な作品を生み出すと努力をする創作活動の中に喜びを感じています。文化祭を準備するとき、同じ「創作することへの喜び」を感じたのは私だけではなかったと思えます。

まさに阿蘇市の初めての文化祭（第一回目）で、すべてが新たな出発でありました。今後、阿蘇市が存続していく限り、文化都市としての香りを醸し出す阿蘇市でありたいと願う市民の強い思いは消えることはいずれでしょう。我が阿蘇市には、多くの歴史的な文化遺産と文化的活動サークルがあります。その成果を表現する市民文化祭は、阿蘇固有の文化を、市民の香りにまで昇華する大切な機会でもあります。展示は自己表現の機会です。文化祭を通じて精神的な開放を願ってやみません。みなさんのご協力を得て、展示責任者の役割を無事に終えさせて頂きました。展示スペースや展示場所に対するご不満もあつたと思えますが、おゆるし願いたいと思えます。

ステージ部長 岩本 昭一郎

平成十七年二月十一日三ヶ町村の合併を期に文化協会も新年度より合併設立実行委員会を作り、その中で組織の編成、役員の選出、事業計画予算案審議等の審議を経て二月合併し新たな文化協会として発足することになった。

本年度文化祭の開催にあたりステージ部門の委員長としての大役に当たることになった。協会の三役をはじめ委員役員員の指導助言を得て、与えられた任務に専念、幸いにして数年前より中部合同文化祭を実施してきた経験があつて、今回第一回の文化祭の開催にあつて各委員の努力により順調に進めることが出来たと思う。年間を通じ各委員がそれぞれの分野で計画的、継続的に学習し練成された技能を公开发表する機会その場が文化祭でありこの事を立派に成功させる事がステージ委員の役割であり責務である。まず各種部門の代表者会議において役割分担を明確にし演出課題について充分に話し合いお互いの連絡調整を図る事とした。各係員の皆さんが自分の仕事を理解し連絡協調努力により大きなミスもなく成果を収めた事に感謝を申し上げます。文化祭終了後の反省会での課題について謙虚に受け止め平成十八年度の文化祭に向けて取り組んで行かねばなりません。

新しい年を迎え阿蘇市文化ホールの新設について市民会議等で検討会がなされています。私たち文化協会会員としてこの事に充分関心をもつて取り組んで行かなければなりません。新文化ホール完成まで二、三年はかかると思われませんが、阿蘇市文化のシンボルとしての内容の充実した素晴らしいホールを期待し、みんなで頑張ります。ここ暫くは文化祭は体育館を利用する事になると思いますが、舞台装置、照明、音響など出来るだけの工夫研究をして行きたいと思ひます。☆反省会で良かった事は、

- 1、司会者の方が二日間に渡り旨く連携され発声も良くプログラムを進められた。
 - 2、舞台の準備係努力でスムーズに出来た。
 - 3、観覧席が全体的に多かつた。
- ☆悪かつた点
- 1、照明について、場所が悪く観客席に支障をきたした。舞台の照明も一工夫した方がよい。
 - 2、演技者の舞台の使い方を考え、バランスを考慮して、
- ※要は会員一人一人が主役となつて積極的に頑張ること。

ちぎり絵

代表者 東 憲子

昨年の第一回阿蘇市文化祭に際しましては、実行委員会の皆様のお骨折りに心より感謝申し上げます。素晴らしい作品に、改めて市の皆様や元気をいただきました。大変意義深いものだと思ひました。私達は「ちぎり絵」を皆と出品いたしました。場所も良いところで、スペースも十分いたたいて感謝しています。ありがとうございます。

書道

書道部長 吉川 秀子

退職して一年余りが過ぎて感じたこと。仕事をしていた時分には気が付かなかつた事、目に留まらなかつた事にたくさん気が付かされた一年だつたように思う。それだけ、ゆとり、特に心のゆとりがなかつたのかも知れない。阿蘇の自然風景、街の通り、今昔、我が家の前に鎮座しているお地蔵様の顔、等々、いつかしら変わつていくのを何も感じなく過ごしてきたことが口惜しく、最近では天気が良い日にはもっぱら歩き回つて新

しい発見の楽しみを見つけ出している。

昨年二月「阿蘇市」が誕生し、市としての文化祭が開催されたが、微力ながら準備から関わり大変さも味わい、同時に今更と違う方違との出逢いもあり、これも私にとつては新しい楽しみ発見となつたことは間違いないことである。ただ、昨年の文化祭は、私自身すべて手探りで余裕もなく終つたよくな気がする。今年も、もう少し心に余裕を持って、皆さんの協力を仰いで成功裡に終わつたと思えるよう頑張りたいと思つている。

合併と時を同じくして退職し、新しい出発が自分自身と重なつたことに運命と幸運を感じ、この年齢になつて見えてきたもの、出会えた人を大事にしたいと心から思つている。私の新しい発見の楽しみが、合併により更に広がっていくことも間違いないなさそうである。

絵に魅せられて

内牧 西村 伎久乃



はつきりはしないが、私が絵画部に入ったのは二十年以上も前になります。最初は宮地の岩永先生に、次は蘇山郷の永田先生にそして現在は金森先生の門下生です。これまで、それぞれ先生方のご指導を受けて参りましたが、たくさんのお事を得させていただきました。その技法や色彩感覚を、言葉は悪いのですが、ひそかに盗みながら、良いところ取りをして今に至っています。私にとつて絵を描く事は自分を成長させる事のひとつであると思つています。絵を描くうえで心掛けていくことは、その対象となる物を良く良く観察すること、そして、自分が感じたままを描くようにするという事です。

とは言え、なかなか思う様には参りません。満足できる絵はないのです。(修行が足りないのがある)。良い絵になつたと思つても時間が経つて見ると、何だか色あせて見えるのです。物足りない気分なのです。これは一体何なのでしょう。まあ良いか。あまり悩まないで、ほつたらかしくしておきましょう。その内見えてくるかも知れません。

さて、私たちの活動の一部をご紹介しましょう。教室で描く事の外、戸外で写生をする事もあります。外に出かける時は午前九時から午後三時までです。だからランチ持参でピクニック気分も味わえるので、仲間も大いに楽しんでます。

菊池水源に行つた時のことです。「アラ！私の弁当がなか！確かにここに置いとつたばつてん、どきやんしたつだろか。」あちこち探したあげく、向こうの岩場の岩と岩の間にそれらしき物が見えます。でも危険な場所なので、諦めて皆の食べ物分け合つて昼食を済ませました。何故あんな所に？皆さんもうお解りですね。ここにもカラスがいたので、中身の重さに耐え切れず途中で落ちてしまつたのでした。ところがその弁当を取り返してくれた人がいたので、危険を冒して水の迫る滑りやすい苔むした岩場を慎重に渡つて回収してくれたのは先生だったので、先生のお人柄と若さが実証された瞬間でした。先生は常に名実共にリーダーなのです。有り難うございました。さて、創作は脳神経の活性化に繋がります。継続こそ生涯学習そのものと思ひます。続けていくつもりです。最後に文化祭時の展示場所について、かねがね感じていた事を述べさせていただきます。本来、書や絵画などの作品は静かな場所で静かに味わうべきです。舞台発表部門と展示部門は完全に切り離して行うのが望ましいと思ひます。実現できる様ご検討お願いします。

第一回阿蘇市文化祭を振り返って

句会代表 湯 浅 陸 雄

阿蘇俳句の会では、昨年の文化祭については、秋季の句を事前に準備してはなかつたのが淋しい思いがした。この要因は阿蘇文化祭事業の合併であり、各部の深い検討会が時間の都合に於いて出来なかつた事にある。

文化祭の時期に合った句が必要なのだが、その余裕さえなかつたのである。又吟行も都合に於いて、前もつて出来なかつた事も要因の一つである。本年はこの点も改善して、会を重ね心を揺り動かす句をと心して居ります。

当日の作品の発表においても、各人の句を引用紙一枚に列記したもので、見劣りのするものであった。作品に張りがない、美的な情緒も無いからだ、改めて反省している。文化祭を全体的に評するならば、足並みは揃っていても、一部に個々の乱れもあり完全とは言えないが、第一回の合同文化祭としてはまずまずの成果であったと評価したい。これも大会会長を始め、各役員の方々の努力であり、嬉しくも頼もしくも思つた。第二回目は本年は、昨年の成果を踏まえ、充実した文化祭になる事を期待したい。それには、多くの方々のご協力が必要であり、各部門ごとに於いて工夫をこらし努力するより外はないと思う。私達は私達なりに心に染みる句を個々に練磨して作り出し、発表したいと思つた。願わくば、新阿蘇市に成りましたので、多くの俳句愛好家の参加を希望致します。

阿蘇一の宮にも、「はなしのぶ句会」がありますので、その会からも、多数の作品をして頂くならば幸いです。最後に成りました、会員各位の御健勝と、作品に対する御健闘を心よりお祈り申し上げます。

短歌への道

広報副委員長 大塚 武子

それは幼い少女時代にさかのぼる。小学五、六年生の頃、師範を卒業して間もない若い男性教師の永田先生が担任になられました。先生は作文の時間によく詩を作らせて、みんなに読んで聞かせ、誉めて下さいました。このことが幼い私に詩を作らせ、そしてその感動が心地よく、作るのが大好きになりました。

やがて、女学校に進学し、国語の担当、井手先生が啄木や牧水それら白秋の詩や歌を朗読して下さいました。卒業しても折あらず、時々自己流の作歌をしていた事、そんな折、当時町の教育委員会で、年に一、二回、地域婦人会とか一般の方々を対象に講師の先生をお招きして、教養講座を受講しておりました。

昭和五十一年頃より成人学級が開講されるとの噂を聞き、さつそく教育委員会にお願ひして、短歌教室を開講していただきました。それが短歌を勉強するきっかけとなり時歌の池田康先生のプリントで月に一回、一年位、講義を受けました。昭和五十三年には、会員が十五名程になり、三月には、「歌集ゆうすげ」を刊行するまでになりました。今は亡き、池田先生の深い御指導の賜と感謝致して居ります。

人は、みんな何らかの形で表現したい欲求をもっています。要は何ものにも縛られない自由な心、本音で一瞬を詠う一人の文学でもあります。高原の深きしじまに絵のごとく、藤とりいる少年のあり、

当時、熊日歌壇の選者、前登志夫先生に初めて投稿して入選した作品です。

主人と子供三人で座山の高原に蕨採りに行き、山峡の風景を詠んだ単純な歌ですが、今では懐かしい歌です。

自然と遊び、自然から教えられ、ときめき、そして感動し、自然環境が育ててくれたものは、大きな財産でもありました。

宇宙の四季、そして言葉の奥に「心」を探すと云う事、又「歌は人格である」とも聞きます。

感性の乏しい私ですが、これからは素直な心で歌を作り、生きる楽しみを見出しに行きたいと思っております。「短歌」とは、私にとって、言葉と果てしない闘いでもあります。

短歌 (ゆうすげ)

残り雪夜の窓に降る幾程か
こころ渴きて在り経し一日
品川 絹子

吹き荒れし嵐のあとの錯雑を
圧して飛び行く白鷺しづか
市原ふみを

ちぎり絵

展示副部長 藤 井 マサエ

阿蘇市に統合して初めて迎えた文化祭が大盛況の内に終えることが出来ました。このことは大変喜ばしく思いました。市民皆様の関心の高さが、作品に表れ、魅力あるものが多く、歴史文化への熱意に、深く感動いたしました。私自身、ちぎり絵の作品に、努力を傾けたいと思つた。最後に、役員皆様のご尽力に深く感謝いたします。

民謡

安川 時子

月二回年齢を超えた若々しい唄声
が教室に響く、声を出すということ
が心身に活力を与えて呉れるから
か民謡教室に集う人々は明るく朗らか、教室には何時も笑いが絶えない
私が民謡を始めたきっかけは唄う
ことが好きで教室に入った人達とは
全く異質なもので、唯単に大きな声を出せるようにしたいという至極単純

なものだった。というのも武道をしていて発音が思わしくなく、何とかしたいという、先生には申し訳ないような動機からだったのだが何時の間にか民謡の魅力と先生の人柄にひかれて今に至っている。民謡には、その土地の歴史がにじみ出ていて唄っているのと知らない間にその唄の発せられた土地柄と生活の在り要を教えられていくことが多い。

何もかも忘れて童心にかえり、一杯に大きな声を出して和気藹々とこれからも元気に民謡を唄っていきたいと願っています。

地域に文化を

阿蘇きすげコーラス 吉良 久子

昭和五十三年阿蘇町教育委員会成人学級で結成されました。その当時堀部先生の御配慮で中古のピアノを備えていただき歌の好きなメンバーで始めました。御指導の先生は、濱津先生、川口先生、松本先生御夫妻、平江先生(十三年)、ピアノの御指導は、江藤先生、柴田先生、宮本先生に御世話様になりました。現在は、高森町から藤野先生、内牧の森山先生に御世話様になっております。両先生共御世話様で一杯です。両先生に御礼申し上げます。団体、県体、小国、一の宮コーラス交流会、イビポラン交歓会、阿蘇北中文化祭、鈴木健二様提唱の身障者と健常者による「こころコンサート」ハートフル熊本大会、施設訪問、愛ライブコンサート、茶寿園のリズマス、阿蘇温泉病院三十周年記念、阿蘇山びこネットワーク、湯まつり、宇城合唱団交流、すみれフェスタ、恒例の阿蘇市文化祭、県立劇場十五回出場の女声合唱フェスティバル(二十八団体七百名)他、走馬燈の様に懐かしく思い出されます。大津養護学校からは、こころコンサート以来入學式、運動会、ふれあいサンデー、卒業式

と拝見さす。又阿蘇さすけコーラス二十五周年記念コンサートホテル角萬で開催することが出来、地域の方々に喜んでいただきました。私達のテーマソング、阿蘇ものがたり、夕すげの季節を福居ユウ子先生より、また村上一光先生より、阿蘇のどんびとからすと山鳩が、の曲をいただきうれしさ一杯です。これまたつづけてこれたのは、教育委員会様、文化協会様の温かい御支援のおかげです。心より感謝申し上げます。団員一同仲良く楽しいコーラスの輪を広げていきたいと思ひます。皆様も御参加下さいませ。阿蘇市に素敵な文化ホールが完成し、世界の音楽祭が出来ます様に御祈念申し上げます。

この一年を振り返って

三味線 下田 美輪子

「阿蘇市文化協会」が昨年四月に設立されたのと同時に、理事に就任致しまして、もうすぐ一年が巡って来ます。誠に早いものです。阿蘇市になって初めての文化祭を開催する為、会議にも何度か出席させて頂いた頂きましたが、旧町村それぞれが納得できるような型ができるまで、かなり手間取ったような印象を受けました。いろいろと議論をして、記念すべき文化祭を無事に終えましたが、課題は山積みのように感じました。しかし、課題というものは一度事を興して初めて出てくるものです。一回一回、反省しつつ、また、御来場された方々や、舞台出演や出展された方々等の意見を素直に受け止めて、時間はかかっても全ての人間達に「良かったあー」と、感激、感動していただくように皆で努力や協力を惜しむこと無く、進歩して行かなければならぬのだと感じました。このような活動の場に於いて、私は経験が浅いので、今後とも先輩方の御指導を受け、新しい取り組みにも挑戦して行きたいと思ひます。

「太鼓に感謝」

大阿蘇御神火太鼓保存会
宮部 絹代

私と太鼓との出逢いは、今から十二年前、町の文化祭で、太鼓を叩いている先輩方の勇んだ声と姿、そして太鼓の音色に、胸の奥からズーンとするような振動と感動を覚え、私も太鼓を叩いてみたいという情熱にかられ、即入会させて頂きました。最初は長い基礎練習があり、一人前に何とか叩けるようになるには、三年程かかりました。それから、色んなイベント等に出演し、お陰様で先輩方と共に台湾公演まで参加させて頂き素晴らしい思い出ができました。又、子供太鼓会を結成。その後家庭の事情で何年かブランクがありました。平成十三年度より「地域に昔から伝わる伝統文化に触れよう」という教育の観点から、一の宮中学校一年生の生徒さんに、音楽選択授業の一つとして、週に一度太鼓の御指導をさせて頂いておりました。生徒の皆さんに、太鼓との触れ合いを通して何か一つでも学んで頂ければ光栄です。又、二年前より、国境を越え、日本の文化に触れたいという、外国語指導助手として地元の学校に勤めておられた、アメリカ人、イギリスの先生方と共に、県でも最大行事の一つでもある阿蘇の火振り神事では、奉納太鼓として貢献させて頂き感謝感激です。地域の活性化、及び観光面に置きましても阿蘇全体のPRに少しでもお手伝いできれば嬉しいと思います。又、昨年の合併文化祭では、踊り太鼓等も組込み、力強さと華やかさを演出できたように思います。最近では若いお母さん方も子供さんを連れて、好きな太鼓をしながら、ストレス解消もでき、皆で、仲良く励んでいます。

最後に、私自身この太鼓に出会って学んだ事は「人と人との和」「目上の人を尊ぶ心と礼儀をつくす」「自分の分をわきまえる」「継続は力なり」この四つでした。色んな人達とめぐり一杯太鼓を叩く事で、辛い時もこの太鼓が私を強く支えてくれた事もありました。この太鼓との出会いが、ここまで自分の生活と密着し、生きていく上に切り離せないものになるとは思っていませんでした。「生涯学習」という言葉の意味を、私は深く受け止めたかと思ひます。本当に素晴らしい言葉だと思ひます。町の文化祭を通して太鼓とめぐり逢えた事を深く感謝致しております。これから先も、皆さん喜んで頂けるような保存会を目指し、阿蘇市の観光メインの一つとしてお役に立てるよう、内容の充実を計り、皆で頑張っていきたいと思っております。どうぞたくさんの方の皆さんのご入会をお待ち致しております。

※月三回練習
月曜日午前十時～十一時半まで
午後七時半～九時まで

代表 〇九六七二二〇二二七

《事務局だより》

阿蘇市文化協会事務局長

下村 勝志



阿蘇市文化協会が発足して、初めての広報誌「噴煙」を発行するにあたり、投稿いただきました。有志の方々を始め、広報委員の御努力に感謝いたします。

さて、今年度は合併して初めての文化協会事業も会員各位の積極的な活動、推進により今後につながる実績をおさめたと思っております。特に、第一回の阿蘇市文化祭において、ステージ、展示、広報部門とも

それぞれ工夫をこらした素晴らしい祭典であったと思ひました。これからも阿蘇市における文化振興、芸術の向上につながる活動を願ひ、会員相互の更なる研鑽を深めていってほしいと思ひます。阿蘇市文化協会よりお願いいたします。文化協会の会員を広く募集いたします。積極的に参加して、会員になって阿蘇市における芸術、文化及び文化祭などで大きく羽ばたいてみませんか？多数の方の参加をお待ちしています。

事務局長 下村 勝志
〇二二二二二三

阿蘇市文化協会広報部長

山内 スミ子

昨年十一月に開催されました第一回阿蘇市文化祭は、町村合併直後に誕生し、阿蘇市文化協会が中心となって運営しました。まさに手作りの文化祭でした。最初の頃は、このままでもうまく運営していくことができたらうかと、不安な気持ちで一杯でしたが、多くの方々の協力のお陰で、阿蘇市の誕生を祝うにふさわしい立派な文化祭が出来たのではないかと思います。まずは、お力添え頂いた皆様に感謝申し上げます。

しかし、うまくいったことばかりではありません。私たち広報部がブログラム作成を進めて参りましたが、初めての経験であったため、十分確認作業ができず、誤りがあり、多くの方に迷惑をおかけいたしました。心からお詫びを申し上げます。

本年度は、できるだけ早くから準備にかかり、よりすばらしい文化祭ができるように、広報委員一同ががんばるつもりです。皆様のご支援、ご協力をよろしく願ひいたします。